



第2回

「山の手大空襲から80年、  
みんなで東京平和ポール de ウォーク大会」 開催!



5月25日 神宮外苑イチョウ並木



表参道から山の手空襲追悼碑、神宮外苑イチョウ並木や山の手大空襲の法要が行われた感通寺、早稲田大学内にある喜久井町戦災者供養観音像などを見学しました。

5月25日、第2回「山の手空襲から80年、みんなで東京平和ポール de ウォーク大会」が開催されました。昭和19年以降、100回以上に及ぶ空襲を東京は受けてきました。その中でも昭和20年3月10日、東京下町を襲った空襲では世界史上に例を見ない規模として「東京大空襲」と称されています。東京大空襲から2か月後の5月25日、東京大空襲の約4倍の3262トンの焼夷弾が「山の手地域」を襲い、国会議事堂周辺や東京駅、皇居などが被災しました。米軍はこの「山の手大空襲」をもって東京の市街地は壊滅したと判断し、この日以降、東京への大規模な空襲は終了したとされています。今では若者の街として有名な表参道周辺には、当時の空襲の傷跡が数多く残されています。

また、神宮外苑再開発問題では、もり 愛東京都議会議員から「住民への説明が不十分なまま外苑の整備事業に許可が出されて、1000本近くの樹木が伐採される」と説明を受けました。近年の気温上昇を抑制するため樹木保存をすることや、100年かけて作られてきた「日本を代表する文化的景観」が高層ビルの建設で破壊されること、子供たちのもらいに自然を残すことを目指し、音楽家の坂本龍一さん（故人）や小説家の村上春樹さんをはじめ多くの方が反対し、署名活動やデモ、認可取り消しを求める裁判を起しています。

私たちは、歴史の事実を学ぶと共に、「平和」を守り抜くためにポール de ウォークを通じて地域社会と連帯し、安全で安心して暮らせる社会をつくり出すために取り組んでいきます！



JTSU は持続可能な開発目標 (SDGs) を  
応援しています。